

裸麦「マンテンボシ」の収量と品質に及ぼす施肥法と施肥量の影響

村上優浩・宮下武則・大山興央・山田千津子・森 芳史・西村 恵

香川県農業試験場研究報告 第56号(2003年10月) 19-24

「マンテンボシ」は、「イチバンボシ」の一般的な施肥体系である基肥6kg+穂肥3kg(いずれも10aあたり窒素施肥量)に基肥を増量したり中間追肥を上乗せすることによって収量を増やすことができた。増収した主な要因は、増肥により穂数が増加しても屑重があまり増えないことにあった。これには、「マンテンボシ」の倒伏しにくい性質が関与していると考えられた。一方、増肥は品質の低下やうどんこ病の多発を引き起こす危険があるので、極端な多肥栽培は控える必要があると判断された。

キーワード：裸麦、マンテンボシ、施肥、収量